

ユジノサハリンスクの人たちとのふれあい

北海道エスペラント連盟 横山裕之

ユジノサハリンスク駅のそばの自由市場の近くにあった食堂で、トレーに食べ物を置いて会計をしようとした時に、前にいたロシア人に日本語で声をかけられました。片言の日本語で、「こんにちは。」「がんばって。」と言われました。そして、困った時にはここに連絡をしてくれと名刺までくれました。親切な人だなあと思い、これは講演・講習会に来てくれるかと思い、ロシア語で書いてある講演・講習会案内のビラを渡しました。その後、ビラを丁寧に読んでくれたのか、講演者にキリル文字で「ホシダ」と書いているのを見て、あなたは星田さんか？と言われたので、いいえ、違います、と言い、星田さんのところに連れて行きました。そして、最後に、講演会には是非きてください、と言いました。



また、ユジノサハリンスクの街頭で、色々な人に講演・講習会のビラを配りました。出発前にはロシアは怖い国ではないかと思っていたのですが、軍人や警察官にビラを配っても何も言われなかったし、配るとほとんどの人はビラをじっくり読んでくれました。スパシーバ（ありがとう）と言ってくれた人もたくさんいたし、心優しい人たちのような印象を持ちました。治安も悪くなかったです。全部で千枚弱のビラを配っています。



その他、あちこちで気軽にビラを配ってましたが、宿泊しているホテルの近くのバス停で、前日にビラを配ったおばさんに、別の人がまたビラを渡してしまいました。相手の反応ですが、ロシア語はわからないので、よくはわかりませんが、ニコニコ笑いながら、昨日もらったわよ、というような意味のロシア語を言ったのではないかと思います。

その人が講演会に来てくれました。前の方に座ってくれました。優しい人だなあと思いました。また、自由市場の近くの食堂で会ったロシア人も来てくれて、目が合うとニコッと笑ってくれて手を振ってくれました。ずいぶん人懐っこい良い人だなあと感じました。ユジノサハリンスクの博物館に行った時に、日本の学生と一緒に来ていたロシア人の学生にもビラを配り、その時に是非来てくださいと言いました。日本人の方は前日に帰るということだったので来れませんでした。ロシア人の学生は来てくれました。うれしかったです。講演・講習会は、全員で19名の参加がありました。



エスペラントは、ザメンホフが人類の友愛・友情のために作った言葉ですが、こういう日常の何気ない人間どおしのふれあいを通じて、発展していくものと思います。これからもエスペラントを通じ、色々な機会を通して、エスペランチストとして仲間どおしお互いに協力しあいながら、エスペラントを普及していきましょう。

今回は、相手はエスペラントを知らないロシア人なので、ビラ等のロシア語の文書を作る際に、日本でもご活躍なさっているセルゲイ・アニケーエフさんやロシアエスペランチスト連合のアレクサンドラさんに、多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。このようにエスペラントを通して、世界中のエスペランチストが普及のためにお互いに協力しあえる関係は今後も続いていくものと信じており、また感謝しております。